

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
学会連携を通じた希少癌の適切な医療の質向上と  
次世代を担う希少がん領域の人材育成に資する研究  
（分担研究報告書）

脳腫瘍診療ガイドラインの作成に関わる研究

研究分担者 杉山 一彦

研究要旨

脳腫瘍診療ガイドラインは脳腫瘍の腫瘍型ごとにガイドラインを発刊してきたが、2022年度は新しい分野のガイドラインとして小児脳腫瘍編を発刊した。小児腫瘍、小児に好発する腫瘍として中枢神経原発胚細胞腫瘍、びまん性橋膠腫、視神経視床下部神経膠腫、小児・AYA世代上衣腫、髄芽腫、上衣下巨細胞性星細胞腫（SEGA）を取り上げ、2022年5月に発刊した。既に発刊済みの成人脳腫瘍編（成人膠芽腫、成人転移性脳腫瘍、中枢神経系原発悪性リンパ腫）を併せ、日常臨床で多く遭遇する脳腫瘍をほぼ網羅した診療ガイドラインが完成した。

A. 研究目的

本年度は小児脳腫瘍診療ガイドラインを発刊し、既に反感している成人脳腫瘍ガイドラインと併せ、脳腫瘍診療ガイドラインの完成を目指す。

B. 研究方法

2021年度より随時、NPO法人日本脳腫瘍学会ホームページに公開している小児脳腫瘍編のガイドラインを2022年度にすべて公開し、これらをまとめて脳腫瘍ガイドライン小児脳腫瘍編として発刊する。

（倫理面への配慮）

作成にかかわる委員ならびにシステマティックレビュー委員のCOIについては過去3年分を収集し、脳腫瘍学会COI管理委員会で本ガイドライン作成に関わることについてCOIを審査した。

C. 結果

小児腫瘍、小児に好発する腫瘍として中枢神経原発

胚細胞腫瘍、びまん性橋膠腫、視神経視床下部神経膠腫、小児・AYA世代上衣腫、髄芽腫、上衣下巨細胞性星細胞腫（SEGA）を取り上げ、2022年5月に発刊した。作成委員ならびにシステマティックレビュー委員について過去3年分のCOIを収集、審査したが、問題となるようなCOIを認めなかった。

D. 考察

小児脳腫瘍編についてはMinds2014に準拠して作成した。これまでの成人脳腫瘍編はMinds2007に準拠して作成しているため、特に推奨の表記方法が両ガイドラインで異なっているため、現在、成人脳腫瘍編の推奨表記についてMinds2014に準拠したものに変更して、部分改訂を行っている。それと並行して既刊ガイドラインを2-3年後を目指して全面改定する新しいガイドライン作成委員会を立ち上げ、脳腫瘍診療ガイドラインの改定や新規項目の作成をさらに活発化する計画が進行している。

## E. 結論

脳腫瘍診療ガイドライン作成作業はいったん完結したが、2-3年後を目指して全面改訂を行う計画が進行しつつある。

## F. 健康危険情報

特になし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

Nakamura H, Takami H, Sugiyama K (著者26名分26番目) . The Japan Society for Neuro-Oncology Guideline on the Diagnosis and Treatment of Central Nervous System Germ Cell Tumors. Neuro Oncol. 2022;24:503-515.

## 2. 学会発表

1. 杉山一彦. アフタヌーンセミナー3-6 脳神経外科医にとって必要な臨床統計学. 第81回日本脳神経外科学会. 横浜, 2022/9/30.
2. 杉山一彦. 領域任命理事セッション 最新知見アップデート 脳腫瘍ガイドライン 今後の展望. 第40回日本脳腫瘍学会. 鴨川, 2022/12/5.

## H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

特になし